

学校支援地域本部事業実践現場訪問

水田の除草作業 ~学校支援ボランティアとともに~ 白石市立深谷小学校

1 はじめに

白石市では地域の住民みんなで子どもたちを育むため、地域の方々を学校支援ボランティアとして学校のニーズに応じて派遣し、学校が必要とする活動を支援する「白石市学校支援地域本部」を昨年度立ち上げました。現在、宮城県内では13市町17本部が設立されていますが、その中で、白石市は唯一「学校教育担当課」が行政の窓口となって事業を展開しています。これまで行政や実行委員会が中心となり、ボランティアの募集や学校との連絡・調整など、主として組織や仕組みづくりに力を入れて取り組んできました。本年度になると、学校からのニーズもどんどん増えてきており、それにとまって、学校支援ボランティアが活躍する場面が多く見られるようになってきています。

白石市は以前から地域の教育力を生かした様々な活動を行ってきましたが、「学校支援地域本部事業」が行われるようになったことで、これまで以上に学校と地域の協働が深まりました。地域コーディネーターが学校と地域をコーディネートしてくれることで、学校としては地域に対して様々な支援の願いがしやすくなりました。教職員にとっても、地域が身近な存在となり、地域の教育力を活用した教育プログラムに積極的に取り組むようになりました。「学校支援地域本部事業」が学校にとってなくてはならない存在になりつつあります。

2 実施日 平成22年7月5日(月)

3 会場 白石市立深谷小学校 学習田

4 取組の概要

深谷小学校では、学校支援ボランティアの方々が関わる教育活動が学校の年間指導計画に位置づけられています。例えば、1~3年生ではボランティアによる本の読み聞かせ、全校活動として行われるサツマイモの苗植えや図書室の整理、4、5年生のスキー教室での指導者、5年生の合宿訓練での登山ボランティアなど全校及びそれぞれの学年に応じた活動があります。

今回の訪問では、3年生が総合的な学習の一環として、学校支援ボランティアの方々の協力をもらいながら取り組んでいる「米作り」の学習の様子を見てきました。秋の収穫に向けてこれから稲はどんどん生長していきますが、いろいろと手をかけてあげないと稲は実を結びません。その中でも、除草作業はとても重要な作業です。講師を務めた学校支援ボランティアの方から、除草作業の意義や必要性、作業の進め方について教えてもらいました。さらに、昔使った木製の手押し車式の草取り道具を使った除草作業も体験しました。

学校支援ボランティアの方は、子どもたちに「土に触れる喜び」や「種まきから収穫に至るまでの農作業の体験をさせてあげたい」と話していました。地域の教育力を活用することで、子どもたちにとって体験を通した本当の学びが可能になり、「学校支援地域本部事業」の教育的な効果を感じることができました。深谷小学校の丸山校長からは、「学校支援地域本部事業が学校にとって非常にありがたいものになっている。」といった話がありました。

5 深谷小学校を訪問して

子どもたちと学習支援ボランティアのみなさんが笑顔で学習活動に取り組む姿が非常に印象的でした。学校が特色ある教育や学校づくりを進め、そこに家庭や地域の人たちが協力し、それを行政がしっかりと支えている様子を見ることができました。学習支援ボランティアと接することは、子どもたちだけではなく、学校支援ボランティアの方にとっても「楽しさ」や「喜び」になっていることを実感しました。

【取組の様子】



教えてもらう学校支援ボランティアの方に元気よくあいさつをしました。



学校支援ボランティアの方から、除草の大切さややり方について説明を聞きました。



まず学校支援ボランティアの方が除草のやり方の見本を見せてくれました。



子どもたちは、実際に自分の手で草を抜いてみました。



一本一本草を抜くことは、たいへんな作業であることがわかりました。



昔使っていた木製の手押し式の草取り機を使ってやってみました。



初めて手押し式の草取り機を使ってみました。とても難しいです。



使い方に慣れてくると、手で抜くよりも楽に作業ができるようになりました。